

SEIJOH

名古屋石田学園報

2017
3/15
No. 49



星城大学



星の城幼稚園



星城大学リハビリテーション学院



星城中学



星城高等学校

グローバル星城



特集

グローバル化への取り組み

星城大学

グローバルリーダー（人材）育成の取り組み

星城高等学校・星城中学校

学園アラカト／星城懇話会会員交流会

あつまれ！星の子／打撃力向上実践講習会／星城大学生の活躍

グローバル化への取り組み!



海外との交流

星城大学 学長 赤岡 功

星城大学は、海外との交流が盛んです。提携校・機関は、中国 4、台湾 7、韓国 3、モンゴル 2、アメリカ 2、ベトナム 1、オーストラリア 1、7 か国・地域の 20 校・機関。2016 年度にはアメリカのセントラル・フロリダ州立大学に 5 名、リンデンウッド大学に 8 名、台湾の開南大学に 2 名の計 15 名が約 1 年の長期留学し、短期のスタディ・ツアーには、アメリカ 11 名、台湾へ 7 名が参りました。

台湾の大学院で修士学位を受けた星城高等学校出身の本学卒業生もおり、台湾、中国、韓国から日本語文化研修に毎年約 20 名が来学します。大学スタッフの相互訪問も多く国際色爛々と輝く大学です。

国際センター活動の総括

学長補佐・経営学部准教授 加藤知子

星城大学国際センターは、「海外」「留学」「留学生」を、その名に冠する業務を網羅しています。海外提携校との交流、星城生を海外派遣する留学と研修、海外からの留学生の学修・生活指導、留学生のための「日本語・日本文化研修」、海外訪問客歓迎行事、国内外の日本留学フェア・イベント参加と現地入試実施、近隣教育機関と国際交流協会などが主催する地域行事への留学生派遣等、活動はグローバル・グローバルです。

国際業務と留学生指導に熱心で、経験豊富なスタッフがセンターを支えています。



① 長期留学などの、星城大学生の海外派遣

学生達に世界で活躍してもらうことを願って、長期留学プログラム、「海外ビジネス演習（米国・中国・台湾）・海外インターンシップ（豪州）」を企画・運営しています。10 か月間海外で学び、合計 4 年間で星城大学を卒業できる仕組みです。右の写真は、2016 年度生壮行会時の記念撮影です。その他、短期留学プログラム「異文化理解演習」実施にも協力しています。



② 留学生の受け入れに伴う、学修／生活指導等事業

海外から星城大学に留学している学生達の指導を行っています。毎年 2 月から 3 月にかけては、星城大学入学予定者等を中心とした日本語・日本文化研修を実施しています。入学後は、新留学生歓迎会、大学祭時の異文化発表会、12 月のバス旅行などを開催しています。下の写真は、2016 年 5 月に実施された、新留学生歓迎会時のものです。



◇2016 年度国際センタースタッフ
(50 音順・敬称略)
伊藤春子、加藤知子、岸貴介、日下部直美、小林康男、神野真寿美、S.ピーターセン、高崎義幸、成瀬秀雄、西村知晃、堀川宣和、森川孝典、山田正人、山本勝巳
◇オブザーバー (50 音順・敬称略)
崔俊、M.スナイダー、盧聰明

③ 海外提携校との交流事業

海外との交流を可能にしているのが、海外提携校の存在です。提携校からの訪問のおもてなし、星城大学スタッフの現地訪問、異文化理解演習（短期留学）を通じた学生交流等が実施できるのも、海外提携校との絆があってこそです。右の写真は、2016年9月に米国リンデンウッド大学から副学長ご夫妻が星城大学を訪れた時のものです。新規に提携校を開拓し、また、現地提携校と連携した留学フェアにも参加しています。



④ 地域イベントへの留学生の派遣

地域の皆様と、星城大学に学ぶ留學生が交流できるよう、国際センターも協力しています。小・中・高等学校の国際行事や、地域の国際交流協会でのイベントに、星城大学留學生が積極的に参加しています。留學生は自国の文化を伝えると共に、日本文化を肌で学んでいます。右は、2017年2月に、東海市渡内小学校を訪問時の写真です。本学留學生がモンゴルのゲル（伝統的移動式住居）を説明しています。なお、日本でホームステイしたい留學生には、地域の国際交流協会の皆様のご協力のもと、星城大学国際センターも支援を行っています。



留學生会会長 安昕（あんきん）さん 経営学部経営学科IT経営コース3年生・中国山東省



中国・山東威海外国語進修学院を卒業後、星城大学に入学し、現在、留學生会会長を務めています。さまざまな国の留學生や日本人とのコミュニケーションを図れる機会を留學生会が作れるようにと取り組んできました。

私自身もいろいろな国の友だちができ、学生生活を有意義に過ごしています。

就職活動がもうすぐ始まりますが、IT関連の会社が希望です。留學生の就職活動は厳しいと聞いていますが、適応能力、忍耐力をもって頑張りたいと思います。そこで経験を積んで、起業したいと思います。また、世界中の国々を見て、その国の文化に触れたいので、世界旅行ができれば良いなと思います。

先輩の声 「見聞を広める」

野場淳平さん

私は星城大学2年次に1年間の交換留学を経験しました。そして大学卒業後は、台湾の大学院へ進学しました。

留学して感じたことは、「語学力は必要であるが、文化、習慣の異なる社会で生活するには、相手の価値観を理解し、コミュニケーション力がとても大事だ。」という事です。大学院では国籍の違う人と勉学に励むことによって各国の理念を見ることができました。机上での勉強では得られない生きた語学力を習得できます。それがまさにコミュニケーション能力です。実際に生活してみると違った角度で日本を見ることが出来ます。

星城大学では留学するためのカリキュラムが充実しており、先生方のサポート体制も万全です。一歩踏み出してみてください。【台湾の東海大学で修士学位を取得した野場さん（上段右から3人目）】



国際感覚を高めよう

星城高等学校 校長 寺田志郎



今日、情報通信技術の発達により、地球の裏側で起こった出来事もほぼ同時刻に知ることができるようになりました。また、街ゆく人々の会話中にも、普段聞き慣れない言葉が増えてきました。まさに、グローバルな時代に生きていることを実感するところです。

グローバル社会を生き抜くためには、単に、英語によってお互いの考えや意志を理解しあえるだけではなく、異なる文化を理解したり、自国である日本の歴史・文化・伝統を理解し、自己のアイデンティティを高めたりすることが大切ではないでしょうか。

SGH活動や、海外短期留学などを通して、国際感覚を磨き、国際的な競争力を高めることに資することができればうれしく思います。

愛知万博で交流

12月20日(火)に、ブルガリアにあるオテッパイシ高校・中学校英語教諭のキロウ・スベトラ・ハセガワ先生が、本学園と国際交流を進めたいということで来校されました。11年前の「愛・地球博(愛知万博)」において、ブルガリアと豊明市がフレンドシップを結んでおりましたが、当時、先生は名古屋大学に留学中で、ブルガリアからの来訪者のお世話をされたようです。本校もホームステイなどで協力をしており、そんなご縁から本校を訪れていただきました。日本語も大変堪能で、両国のことわざの違いの本も執筆されており、現在は、ブルガリアで日本語のご指導をしておられるとのことでした。

また、元豊明市国際交流協会長である本学園の石田正城理事長とともに豊明市の小浮正典市長を表敬訪問しました。何らかの形で交流ができるようになればと期待が膨らみます。



【星城高等学校にて】

友好交流提携校 台湾 慈明高級中学校来校～星城高等学校卒業式見学および星城大学キャンパスツアー～



【日本語クイズを楽しむ慈明高級中学校生】



【着付け体験】

2月23日(木)星城高等学校卒業式が挙行されました。厳粛な雰囲気の中、行われる卒業式に慈明高級中学校の生徒たちが参列されました。貴重な体験を積んでいただけだと思います。

その後、星城大学へ移動し、キャンパスツアーや日本語クイズなどを楽しんでいました。「日本文化を知ろう!」では着付けも体験し、紋付袴を着た男子生徒は、侍のポーズをとるなど、興味深い様子でした。今後も活発な交流を望んでいます。

photogallery

仰星コース ベトナム修学旅行記



【現地日系企業見学】



【ベトナム高校生との交流会】

仰星コースの生徒たちは、初のベトナム修学旅行に行ってきました。ベトナムを観光するというのではなく、グローバルな視野をもって物事を考えていくという学習を目的として行われました。このような現地調査型の国際理解学習の中で、国際社会の中で自分たちはどうあるべきかを考えることができた有意義な修学旅行となりました。

SGHアソシエイト活動がもたらすダイナミズム

星城高等学校副校長・中学校長 水野謙二



文部科学省からスーパーグローバルハイスクール(SGH)アソシエイト校の指定を受けて二年目となります。「持続可能なアジアの発展に寄与できる、実践力を有するグローバル・リーダーの育成」を目標に掲げて、本年度の入学生からSGH活動を教育課程に組み込んで、With Your Views For Tomorrow!(明日を描き、明日を拓こう)をスローガンに、全体でSGH武道を実施し、①アジア学探究活動、②交渉学(ディベート等)、③英語講座・イングリッシュキャンプ・海外研修④講演会を4本柱にして活動してきました。

12月の台湾研修では姉妹校の慈明高級中学校と交流し、2月の卒業式には楊校長先生はじめ慈明の生徒の参列を受けて絆がさらに深まりました。3月には講演会・台湾海外研修報告会と合わせて、SGHアソシエイト活動発表会を行います。また、SGH甲子園には仰星コース1年生から3チームが出場しポスターセッションを行います。全国のレベルを直に体験し、活動

の大きいなる発展につなげてくれることを期待しています。

SGH活動をカリキュラム化したことによって、互いの刺激や学び合いを通じてより深みのある活動を展開できたことは誠に嬉しいことだと思います。今年度は卒業生の海外大学へのチャレンジもあり、今後が楽しみです。

★ ジュニア SGH 活動

星城中学校主任 澤田 満

星城中学校では、グローバル・リーダー育成を目指して、星城高等学校SGHアソシエイト活動と連携しながら、「ジュニアSGH活動」と銘打って国際交流活動を行っています。中でも、神戸にあるPHD協会(草の根の人々による国際交流・協力の活動をしている団体)の研修生をお招きしての交流会は毎年行っています。本年度はネパール、ミャンマー、インドネシアからの研修生をお招きしました。研修生との交流会はこれからも柱として取り組んでいきたい活動の1つです。

また、本年度は新しい企画として、1年生がJICA中部(独立行政法人国際協力機構中部国際センター)を訪れました。生徒たちは日本の国際貢献の歴史や現状に触れることができました。グローバルな視野を養うための重要な行事としてこれからも続けていきたいと考えています。



【JICA中部訪問の様子】

★ 台湾海外研修を終えて

星城高等学校 仰星コース 教頭 石部生志

昨年度のミャンマーに続き、今年度は12月17日(土)から21日(水)までの4泊5日の日程で、台湾海外研修に行ってきました。SGHアソシエイト活動の1つで星城中学生4名と星城高校生8名の計12名が参加し、台北・台中・新竹市を訪問しました。台中では、慈明高級中学校の生徒の家庭に1泊ホームステイを行い翌日は日月譚見学・交流会を行いました。

新竹では六家高校の和太鼓演奏で迎えられ、午前中学生達とグループ活動や一緒に昼食をとるなど、楽しいひとときを過ごすことができました。

研修を通じて、台湾と日本の教育や文化の違いを感じる良い機会になったと思います。



【慈明高級中学校との交流会】



【六家高校の和太鼓演奏でお出迎え】

学園アカルト

公開シンポジウム「21世紀型『ゆたかな社会』を求めてⅡ」 立浪和義氏講演会

星城大学



【立浪和義氏】

11月27日(日)に公開シンポジウム「21世紀型『ゆたかな社会』を求めてⅡ」第3回を開催しました。

講師として、元中日ドラゴンズ・野球解説者の立浪和義氏をお迎えし、「人生を輝かせるために～夢の実現を通して～」をテーマに、講演いただきました。熱心なファンの方々など多くの来場者で満席となった会場では、立浪氏の登壇に現役時代さながらの歓声が上がりました。

立浪氏は、PL 学園時代の厳しい練習や寮生活に耐え抜いたご自身の経験をユーモアを交えながら話されました。また、野球に打ち込んだ経験から、夢を実現するためには、継続と負けん気が必要であり、良かったときにこそ反省することが重要だと語られました。



【立浪氏の講演に聞き入る参加者】

平成28年度 星城大学高校生懸賞川柳授賞式

星城高等学校



【赤岡学長より表彰される渡邊くん】

1月28日(土)星城大学にて、「星城大学高校生懸賞川柳授賞式」が行われました。本校からは、3年生の渡邊佳祐くんが、傑作賞をいただきました。

【句】凛とする 一步踏み入る 茶道室

「傑作賞にまさか自分が選ばれるとは思わず、とても驚きました。テーマが学校や部活動などのことだったので、3年間続けてきた茶華道部のことを、率直に自分の気持ちで表した一句にすることができました。

他の人の川柳を聞き、皆それぞれ個性豊かな作品に触れることができ、とても参考になりました。また、星城大学の教授の方々とも懇談することができ、とてもよい授賞式になりました。この経験は、私にとってとてもよい機会になりました。」と授賞の感想を述べていました。

百人一首大会・健脚会開催

星城中学校



【走走を目指す健脚会】

1月14日(土)に百人一首大会を行いました。毎年恒例のこの行事は、生徒たちが練習に励み、大変白熱した試合となりました。試合は、3対3の源平戦で行われ、中には、この日のために前年の4月から練習を始めていた生徒もいました。

また、1月27日(金)には健脚会が行われました。今年は学校をスタートし、名古屋城を折り返し、また学校を目指す42.4kmのコースに生徒たちは挑戦しました。とにかく少しでも速くゴールしようというチームもあれば、確実にゴールまでたどり着くことを選択するチームもありました。どちらも目標に向かって一所懸命に取り組みました。大きな課題に立ち向かい乗り越えられたことを誇りに、チャレンジ精神をもって今後の学校生活を送ってほしいと思います。



【真剣な表情で臨む百人一首大会】

2月3日は節分です。春が始まる前に「新しい1年が不幸や災いがないように」と願いを込めて「鬼は外、福は内」と鬼が家の中に入らないように豆まきをします。

節分の朝、園庭に鬼が出現し、子どもたちが大声で「おにはーそと、ふくはーうち」と言いながら豆をまきました。年の数だけ豆を食べると元気に過ごせると言われています。



【園庭に現れた鬼に大喜び】

年長組、年中組では給食で「恵方巻き」を食べました。年長のみんなどは自分たちで具を入れ海苔をまいてがんばって

作りました。年中組はボランティアの皆さんに恵方巻きを作っていただきました。今年の恵方は北北西なので、恵方を向いて黙々と願いを込めながらおいしくいただきました。みんなの願いが叶いますように。



【元気いっぱいの豆まき】

特別講義

星城大学リハビリテーション学院



【平成28年度実習指導者会議 学院長の挨拶】

1月20日(金)本学院にて、平成28年度「見学・体験実習」および「検査・体験実習」の実習指導者会議が行われました。2月下旬～3月上旬の間にそれぞれ1週間、1年生は初めての見学・体験実習に、2年生は実際の臨床現場で今まで学習してきた知識や技術を実施させていただくために検査・体験実習に臨みます。

実習指導者会議で学生達は、病院・施設等でお世話になる理学療法士の先生に直接ご挨拶をして、実習における注意事項や事前準備の確認をしていました。

実習指導者会議の4日前に行われた接遇セミナーで体得した「社会人としてのマナー」「医療人としての心得」を忘れず、今まで講義で学んだ知識を最大限活かせるように積極的に取り組んできて欲しいと願います。



【実習指導者との面談】

星城懇話会

「会員交流会」が開催されました

12月1日(木)名古屋観光ホテルにて「平成28年度星城懇話会 会員交流会」を開催いたしました。イベントでは「シンガーソングライター えみ」さんに、ボブ・ディランがノーベル文学賞を受賞したことから、ディランの代表曲「風に吹かれて」などを演奏していただきました。会場の皆様も笑顔で聴き入っており、大変盛り上がりしました。

また、名刺交換があちこちで行われ、異業種交流・親睦の輪を広げることができました。今年度も多くの方にご参加いただき、大変好評な会となりました。

【交流会を楽しむ会員の方々】



打撃力向上実践講習会開催

北京オリンピックソフトボール金メダリスト 馬淵智子氏
ソフトボール世界選手権銀メダリスト 濱本静代氏



1月28日(土)12時30分より、ソフトボールを通した健全な青少年の育成及び打撃力の向上を目的に、地元高校の女子ソフトボール部員を対象とした「打撃力向上実践講習会」を開催しました。講習会には、150名の高校生が参加しました。

講師として、星城高等学校卒業生である馬淵智子氏(北京オリンピックソフトボール金メダリスト)、濱本静代氏(ソフトボール世界選手権銀メダリスト)をお迎えしました。

参加した高校生からは、講師からわかりやすくアドバイスをいただけた。今日学んだ練習方法をこれからの試合で活かしていきたい」と満足した表情で語られました。

馬淵智子氏のコメント



今回の「打撃力向上実践講習会」において、短い時間ではありましたが、多くの選手と接しながら、バッティングについていろいろな話をする事ができました。全体を通して、技術面でのレベルが高く、普段から細かいところまで意識している選手が多かったことが印象的です。

今回の講習会をきっかけにさらにバッティングに対し一生懸命取り組み、ソフトボールをこれからも長く続ける選手や、この東海地方から世界に羽ばたいていく選手が増えてくれることを願っています。

濱本静代氏のコメント



積極的に質問をしてくる選手が多く、一人ひとりから「打ちたい」という思いがすごく伝わってきました。今回の講習会が選手の皆さんにとって、コツを掴むキッカケになればと思います。

星城大学生の活躍

かがやけ☆あいち サスティナ研究所に本学学生が参加



愛知県の大学生が企業の環境課題に対する解決案を提案するプロジェクト「かがやけ☆あいちサスティナ研究所」(愛知県環境部推進事業)に、経営学部国際ビジネスコース3年 古澤基輝さんが参加し、他大学生3人とともに株式会社ナゴヤキャッスルの環境問題に取り組みました。

学生たちはナゴヤキャッスルから出された「ホテルのお客様が体感できる環境配慮商品・サービスを検討せよ」という課題に対し、3つの提案を提出。10月の部長会で中間報告プレゼンを実施しました。そして、11月23日に成果発表会が開催されました。

星の城幼稚園 あつまれ「星の子」



父より娘たちへメッセージ (父) 山田義久 さん 昭和60年卒園
 “世界に2人だけの姉妹 お互いを思いやり 笑顔の素敵な女の子に!” (娘) 山田芽依 (めい) ちゃん 平成26年卒園 (小学2年生)
 (娘) 山田咲季 (さき) ちゃん 年長組に在園

「親子で星の城幼稚園」の山田さんに聞きました

Q.星の城幼稚園を選んだ理由を教えてください。

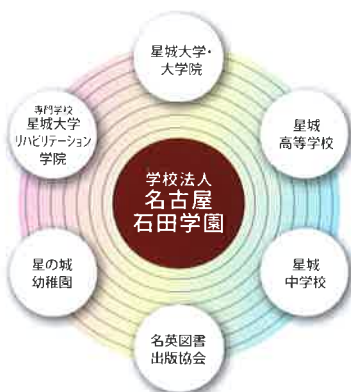
A.説明会の時に、当時の園長先生が園児一人ひとりの名前を覚えていて、話しかけてくる子どもと楽しそうにお喋りする姿から温かみを感じました。

Q.幼稚園に入って成長したなど感じることは。

A.楽しかったことや嬉しかったこと、また嫌な思いをしたことなど、幼稚園での出来事をたくさん話してくれますので幼稚園での様子がわかります。2人ともいろいろな行事を通じて協調性が育ってきたように思います。芽依は徐々に自分でやってみようという気持ちが出てきて、下級生の面倒を進んでみています。咲季は音楽会や生活発表会など大勢の前で堂々としている姿は、家では見ることができない一面で大変嬉しく思います。

Q.どのように育ててもらいたいですか。

A.常に目標を持って、それを目指して努力できる子。友だちを大切に人思いやれる子。素直な心を持たずに自分に自信を持てる子です。



学校法人 名古屋石田学園

〒460-0008 名古屋市中区栄1丁目14番32号
Tel: 052-221-8921
URL: http://www.n-ishida.ac.jp/